

令和 6 年 7 月 2 9 日

令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
岐阜市立岐阜小学校（外 4 5 校）	岐阜市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

【別紙 1】参照

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

【別紙 2】参照

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（1）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている ・一部、計画通り実施できていない ・ほとんど計画通り実施できていない
--

（2）実施状況に関する特記事項

岐阜市内全小学校第 1 学年～第 6 学年において「英語科」の授業を実施し、低学年から段階的に指導を行うことで、中学校への指導につなげている。

（3）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している ・実施していない
--

3. 実施の効果及び課題

（1）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

6 年間を通した系統的・発展的な指導によって、義務教育を終えた誰もが、自分の考えや気持ちを伝えたり、身の回りのことや岐阜市のことなどを英語で紹介したりするなど、国際社会の一員としての役割を果たすことができるようにすることを目標としている。

令和 5 年 4 月、市内 46 校の小学 6 年生児童 3,037 名を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」では、児童質問紙の結果より、「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありま

したか」という質問項目に対して、「当てはまる」あるいは「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が全国と比較して、5.7ポイント高かった。

これは、市内共通のカリキュラムに基づいて、第1学年から英語科の授業に取り組んでいること、市内研修を通して授業研究に取り組んでいること、市内全小学校に派遣された外国人指導助手と日常的にコミュニケーションを取ることによって、外国の人と関わったり英語を使ったりすることに対して抵抗が少なくなってきたことを示唆していると考えられる。

一方で、「英語の勉強は好きですか」という設問に対して肯定的な回答をした児童の割合は、全国と比較して、0.9ポイント低かった。英語学習に対する児童の興味関心を高めるためには、コミュニケーションの楽しさを味わうことのできる表現活動に着目し、授業を改善していく必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育法第二十一条三項に掲げられた「我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」という目標は、外国籍人口の増加等、国際化が進む本市において取り組むべき課題と合致している。前項で示した「学校の授業以外で英語を使う機会があった」と回答する6年生の児童が多かったことも、本市の国際化を表す一つの事実だと言える。

英語科の授業を通して、小学校1年生から外国人指導助手と積極的に関わり、母語以外の言語や、日本を含めた様々な国の文化に触れることで、児童は人種や文化の多様性を体験的に学ぶことができる。このことは、前述した学校教育法の目標の達成に寄与するものであると考えられる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3(1)で述べたように、「英語の勉強が好き」だと答える児童の割合を高めていきたい。そのためには、コミュニケーションの楽しさを味わうことのできる表現活動を実施していく必要がある。教師の発話を繰り返したり、ゲーム的な活動に終始したりするのではなく、目的や場面、状況等を明確にした表現活動を実施していく。

例えば、「来日するALTの両親にとって思い出に残る旅となるようなレストランを紹介しよう」という題材であれば、児童の生活経験や嗜好、性格などを生かしてレストランを選ぶことができる。そこで食べられる料理を勧める児童もいれば、食事する場所から楽しめる景色を勧める児童もいるかも知れない。そんな「表現してみたい」と思える題材と、「何ができればよいのか」を具体的な評価規準として示すことができれば、児童は見通しをもって楽しく表現活動に取り組むことができる。

これらの授業改善について、市内の研修や教育課程研究協議会等で広め、実践につなげていく。